



文化財ニュース

No. 66

編集・発行 加古川市教育委員会 文化財調査研究センター

文化財調査研究センター ■住所 〒675-0101 加古川市平岡町新在家1224-7（中央図書館2階、JR東加古川駅から北へ徒歩約10分） ■電話 (079)423-4088 ■FAX (079)423-8975 ■事務取扱時間 平日9:15～18:00（土・日曜、祝休日、12月29日から翌年1月3日まで、毎月第2月曜は休所）
 ■ホームページ（加古川市） <https://www.city.kakogawa.lg.jp> （文化財調査研究センター直結QRコード）



日岡山公園で東車塚古墳などの周濠を発見

加古川市では、日岡山公園再整備事業に先立って、令和4年7月から9月まで、墳丘が削られたため位置がわからなくなっていた東車塚古墳、西車塚古墳周辺、その南側に広がる広沢山遺跡で、計600㎡の試掘・確認調査を実施しました。その結果、東車塚古墳と西車塚古墳の周濠と埴輪を発見し、今までわからなかった、これらの古墳の位置、形と大きさが判明しました。

日岡山には、ひれ墓古墳（日岡陵、景行天皇の皇后播磨稲日大郎姫命の陵墓）をはじめ、南大塚古墳、西大塚古墳、北大塚古墳、勅使塚古墳という5基の前方後円墳が集中しています。日本の古代を知るうえでたいへん重要な記録である『古事記』、『日本書紀』、そして『播磨国風土記』には、景行天皇の活躍やその皇后のことが記されています。この古墳群は、4世紀頃のヤマト王権の広がり、すなわち国の成立過程を考えていくうえで、たいへん注目される古墳群です。

この日岡山古墳群からは、以前に三角縁神獣鏡をはじめとする5面の銅鏡が出土しています。令和2（2020）年の駐車場工事に伴う発掘調査では、昔の絵図に見られた「神納塚古墳」の周濠が見つかり、さまざまな種類の埴輪が出土しました。

ふるさとの伝説と地名

今から約1300年前の奈良時代に成立した『播磨国風土記』のはじめの部分には、加古川の地名のことが記されています。景行天皇がこの地にやってきて四方を見てみると、この丘が鹿の子どものように見えたので



日岡山古墳群位置図

「カコ（鹿児）郡」と呼ぶことになった。また、天皇が狩りをしている時、一匹の鹿が丘に登って「ヒヒ」と鳴いたので、この丘を「ヒオカ（日岡）」と呼ぶことにした、という地名説話です。

市内には、地名をはじめさまざまな伝説が残っています。伝説の多くは、創られた物語で歴史的な記録とはいえません。その中でも、地域の歴史や特色を物語っている興味深いものが数多くあります。

新しい指定文化財

令和5年3月9日の定例教育委員会で、文化財審議委員会の答申を受けた平荘町池尻の「稚児窟石棺蓋」が、新しく市指定文化財に加わりました。

これにより、市内の指定・登録文化財は、国指定23件（うち国宝2件）39点、県指定33件55点、市指定71件1,427点、国登録9か所37件になりました。

これらの指定文化財をはじめ、市内にはたくさんの文化財があります。先人たちが伝えてきた地域の文化財を、心豊かな生活のために活用していくとともに、次世代に継承していくことについて、ご理解とご協力をお願いします。



稚児窟石棺蓋

新指定

稚児窟石棺蓋 1基 市指定 考古資料

寸法／長辺242cm、短辺158cm、高さ60cm

材質／流紋岩質凝灰岩（竜山石）製

時代／古墳時代後期-飛鳥時代／6世紀末-7世紀初

所在地／平荘町池尻698番地の9

管理団体／池尻町内会

平荘湖の南の畔の神社の前に置かれているこの石造品は、稚児窟と呼ばれている池尻16号古墳の石棺の蓋の部分です。長辺に各2、短辺に各1の縄掛け突起がつく市内最大の家形石棺の蓋です。

池尻16号墳は、墳丘の大きさが一辺約40mあり、兵庫県下最大の横穴式石室を持つ方墳です。形や大きさなど、当時のヤマト王権の王族や有力豪族がつくった古墳の影響が強く見られます。この古墳は、昭和41（1966）年に完成した工業用水ダム湖である平荘湖に水没し、石棺の蓋は、弁財天をまつる市杵島神社と

ともに南側の湖畔に移され、露天で保存公開されています。石棺の身の部分は、江戸時代に姫路藩主榊原式部大夫が庭に置くために運び出したがあまりに重いので途中で放置した、という記録があり、その後、昭和11（1936）年頃になって道路拡幅工事で発見され、現在、志方町投松の公民館前に保存されています。

この石棺蓋は、古墳時代後期から飛鳥時代の播磨の歴史を考えるうえで、また、当時の高度な石工技術を知るうえで、学術的に価値が高いものです。

文化財関係印刷物刊行のお知らせ

令和4年1月から12月までに刊行した文化財関係印刷物は以下のとおりです。文化財調査研究センターをはじめ関係施設・機関で閲覧することができます。また、解説シート及び報告書などの印刷物をホームページで公開しています。

『加古川市文化財年報第5号 令和元（2019）年度』（2022年、A4判48頁）

『神納塚古墳発掘調査報告書・広沢山遺跡発掘調査報告書』（2022年、A4判88頁） 加古川市文化財調査報告35

『坂元遺跡発掘調査報告書』（2022年、A4判88頁） 加古川市文化財調査報告36

『加古川市遺跡分布地図-第4版-』（2022年、A3判72頁）

文化財解説シート（2022年、各A4判1枚両面刷）
第29号『円照寺の銅鐘』、第30号『石井の清水、中西廃寺の露盤・刹』、第31号『坂元の宝篋印塔』、第32号『益気神社の五輪塔・宝篋印塔・宝塔』（配布用、残部有）

（いずれも非売品）

文化財関係出版物の販売

教育委員会では、過去に刊行した文化財関係出版物で残部があるものを販売しています。購入を希望する場合は、直接、来所ください。郵送の場合は、送料などが必要です。詳しくは文化財調査研究センターまで。

【普及図書】

『郷土のおはなしとうた第3集』（1976年、A5判94頁）	600円
『加古川市の文化財』（1988年改訂、A5判123頁）	1,000円
『加古川市文化財図録』（1995年、A4判107頁）	3,800円

【文化財調査報告書】

『岸遺跡』（1972年、B5判23頁）	200円
『山之上遺跡Ⅰ』（1977年、B5判8頁）	200円
『東中遺跡発掘調査報告書』（1981年、B5判106頁）	1,200円
『加古川市埋蔵文化財集報Ⅰ』（1983年、B5判28頁）	500円
『加古川市の民俗』（1985年、B5判291頁）	1,200円
『加古川市遺跡分布地図』（1994年改訂、A4判291頁）	1,800円
『奥新田西古墳発掘調査報告書』（2000年、A5判41頁）	500円

調査と報告

埋蔵文化財発掘調査

教育委員会では、埋蔵文化財保護のために調査を実施しています。令和4年1月から12月までに、遺跡内での工事について128件の届出があり、道路整備事業に伴う美乃利遺跡、住宅開発に伴う岸城跡、雁戸井地区は場整備事業に伴う上村池遺跡と広畑遺跡の計4件の記録保存のための本発掘調査を実施しました。

このほか、遺跡の破壊の可能性がある19件（22遺跡）の開発事業で埋蔵文化財の有無を調べる確認調査、遺跡の可能性がある地区での開発事業で6件の試掘調査、開発予定地で2件の分布調査を実施しました。

確認調査では、東車塚古墳、西車塚古墳、広沢山遺跡、溝之口遺跡（以上加古川町）、古大内遺跡（野口町）の5遺跡で、試掘調査では、加古川町大野地区、野口町古大内地区の2か所で遺構を確認しました。

確認調査の結果などをもとに、可能な限り遺跡が破壊されないよう関係者と協議します。そして、やむを得ず遺跡を破壊する場合は、記録保存のために本発掘調査を実施し、発掘調査報告書を発行することで、記録の保存と公開を行います。

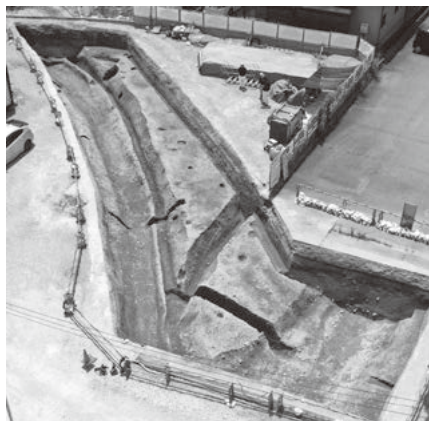
埋蔵文化財の保護のため、一般に「遺跡」と呼ばれている「周知の埋蔵文化財包蔵地」内で土木工事を行う場合、地中を掘る行為の60日前までに「発掘届」という届出をしなければならないことが文化財保護法で定められています。その届出に基づいて、埋蔵文化財を保護する必要がある場合は、協議をすることになります。

工事と埋蔵文化財保護を円滑に進めるために、土木工事などの計画がある場合は、早めに文化財調査研究センターにご連絡ください。

美乃利遺跡発掘調査

令和4年3月から8月まで、道路敷設工事に伴い美乃利遺跡のうち

加古川町大野地区内の296㎡の範囲を本発掘調査しました。



美乃利遺跡発掘調査写真（上が南）
左（東）が弥生時代の大溝、
右（西）が平安時代の大溝

2つの遺構面を調査し、上面では、掘立柱建物1棟、土坑・ピット多数、溝数条、幅9mの大溝の遺構を検出しました。出土した土師器や須恵器から大部分が平安時代頃の遺構と考えられます。

下面では、土坑やピット、堅穴建物と考えられる落込み、弥生土器を含む土で埋没した幅4mの大溝を検出しました。

調査の結果から、この遺跡の北にある大野遺跡まで遺構・遺物の分布が広がることなど、遺跡の様相がしだいにわかってきました。

岸城跡発掘調査

西神吉町岸の岸城跡で、令和4年5月から6月まで、宅地造成工事に伴う調査面積503㎡の本発掘調査を実施しました。

この遺跡は、過去の分布調査などで中世の城館跡と考えられていました。今回の調査の結果、濠と考えられていたものは新しい時代の池の埋没跡であり、掘立柱建物などの遺構と土師器・須恵器の遺物から、城館跡ではなく中世の小規模な集落遺跡であったことがわかりました。

上村池遺跡・広畑遺跡発掘調査

八幡町中西条の上村池遺跡を令和4年9月、広畑遺跡を同年11月から翌年1月にかけて、農業用水路の工事部分で本発掘調査を実施しました。

上村池遺跡は、平成28（2016）年以降4か所で調査しています。今回は、140㎡の調査で、平安時代後期のものと考えられる掘立柱建物2棟、土坑6基、ピット2基、溝状遺構を確認し、土師器、須恵器、瓦質土器、瓦、石器が出土しました。

広畑遺跡では、475㎡の調査で、古墳時代から中世までの複数の土坑などを確認しました。土坑の多くは須恵器生産のために粘土を採掘した痕跡とみられることから、この近くで窯業が営まれていたと考えられます。

その他の文化財調査

埋蔵文化財のほか、所有者や地域住民からの情報提供による、古文書2件、石棺、コウノトリ飛来の4件の調査などを行いました。

令和4年はコウノトリの飛来が多く見られました。コウノトリは特別天然記念物で、たいせつな文化財として見守っています。



市内に飛来したコウノトリ

保護と活用

教育委員会では、市内の文化財保護のための事務とともに、文化財保護意識啓発のための事業を行っています。文化財の公開、説明板の設置、講座の開催、講師の派遣、指定文化財の整備や保存管理事業に対しての補助などです。

また、加古川市文化財保護協会や加古川文化遺産活性化実行委員会をはじめ、地域の文化財関係団体とともに、文化財の保護と活用に取り組んでいます。

重要文化財鶴林寺鐘樓の保存修理

令和4年度から2年間、鶴林寺（加古川町北在家）の重要文化財の鐘樓と護摩堂の修理が行われています。老朽化した屋根瓦の葺替えを中心としたものです。鶴林寺が事業主体となって、国をはじめ兵庫県、加古川市の補助を受けての事業です。

令和4年度は、応永14（1407）年に建てられた鐘樓の修理です。前回の屋根瓦の修理は、昭和4（1929）年、今から94年前に行われました。修理は、可能な限り古い部材と技法を用います。解体した瓦や部材を1点ずつ確認し、老朽化や破損で使えなくなったものだけを、新しいものに取り替えます。



鶴林寺鐘樓修理工事現場見学会のようす

令和5年2月11日と12日には、修理工事見学会が開催され、約250人の見学者がありました。

文化財講座

文化財調査研究センターでは、毎年、地域の歴史や文化財についての理解を深めるための事業として文化財講座を開催しています。

令和4年度は加古川市民会館を会場に、10月29日「鎌倉時代の加古川」（金子哲先生）、11月5日「西条古墳群～1963・64年の調査成果～」(上月昭信先生・友久伸子先生)、11月26日「陶磁器からみた中世の播磨」（岡田章一先生）の3回の文化財講座を開催し、延べ171名の参加がありました。

地域文化財総合活用推進事業協力

この事業は、わが国の「たから」である地域の多様

で豊かな文化遺産を活用した、伝統芸能・伝統行事の公開・後継者養成、古典に親しむ活動など、各地域の実情に応じた特色ある総合的な取組に対して支援することで、文化振興とともに地域活性化を推進することを目的としています。

令和4年度は「伝統文化親子教室」として能楽、獅子舞、笛、いけばな、茶道、俳句、百人一首、伝統文化伝承などの15団体の事業が実施されています。

また、関係団体によって加古川文化遺産活性化実行委員会が組織され、9件の屋台や太鼓の修理など用具整備事業などが実施されています。

詳しい内容については、文化庁のホームページで確認し、事業の実施にあたっては、加古川文化遺産活性化実行委員会、または文化財調査研究センターにご相談ください。

加古川市文化財保護協会の会員募集

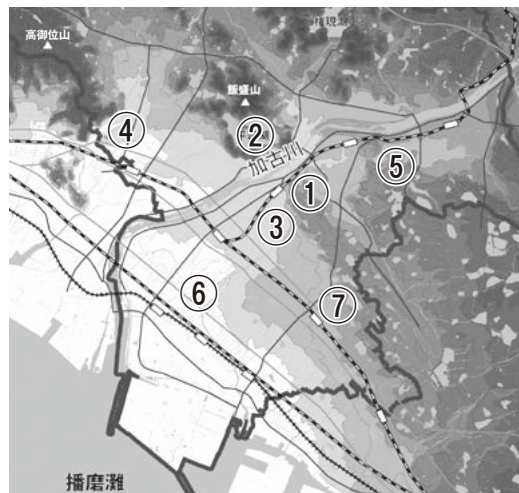
加古川市文化財保護協会は、市内の文化財ならびに自然風土を保護し、これらに関する研究とその知識の普及をはかり、市民文化の向上に資することを目的として、昭和51（1976）年から活動している市民団体です。

お問合せは、文化財調査研究センターまで。

編集後記

文化財ニュースは、3年前まで町内会などを経由して全戸配布していました。近年は新型コロナウイルス感染症の影響で、町内会経由の配布ができないため、教育機関や公共施設を通じて配布することが続いています。

このニュースをはじめ、文化財の情報はホームページにも掲載しています。表紙のQRコードなどを使って加古川市の文化財情報を広めてください。



- ①日岡山古墳群（東車塚古墳・西車塚古墳・広沢山遺跡）
- ②稚児窟石棺蓋 ③美乃利遺跡 ④岸城跡
- ⑤上村池遺跡・広畑遺跡 ⑥鶴林寺
- ⑦文化財調査研究センター・加古川総合文化センター・博物館

文化財ニュース66号関係文化財地図